

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2019年3月12日

事業所名 特定非営利活動法人くまっこクラブふくい

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			子ども達がのびのびと活動できるよう仕切りのない広々としたスペースにしている。	民家を改装しているため段差やトイレが狭いなどの課題はある。今後新事業所の設計では子ども達が使いやすいように工夫をしていく。
	2	職員の配置数は適切である	○			常に1名は加配している。障がい特性や活動内容などに合わせて、職員の配置を増やすようにしている。	専門的な知識やスキルを持った職員が増えていくように、研修に参加していく。また資格の取得などを法人で応援していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている			○	イベント時などに利用できる簡易スロープを準備している。	民家を改装しているため段差やトイレが狭いなどの課題はある。今後新事業所の設計では子ども達が使いやすいように工夫をしていく。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している		○		年度初めに職員が参加し、目標を決めている。その目標に対しての振り返りを年度末に行っている。	月に1度の全体での職員会議や各事業ごとのミーティングで支援内容や施設の環境、業務内容などについて振り返りを行っている。パートの職員などが参加できないこともあるので今後改善していきたい
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			定期的な保護者面談や親の会の開催で保護者の方の意向を聞いている。	今年度は初めて保護者向けの評価のアンケートを実施している。いただいた意見を参考に業務の改善につなげていきたい
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページで公開している。	ホームページで公開している事を保護者等に機関誌等を通じてお知らせしていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		現在は行っていません。今後検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			年間を通してテーマを決めて他事業所との合同研修に取り組んでいる。	年間の研修計画に沿って、内部研修、外部研修などを積極的に行い職員のスキルアップを目指していく。

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			子ども達のやってみたい事の聞き取りを行い、計画を立てている。	保護者の方との面談やニーズの調査を行い、それを踏まえ話し合いを行った上で計画を立てている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○			アセスメントツールが標準化されておらず、その時に応じた方法でアセスメントしている。今後標準化したアセスメントツールの導入を検討していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			週に1度職員ミーティングを行い、活動について話し合っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			子ども達と活動の内容について話し合いを行っている。	季節の行事や1年を通して取り組むプログラムもあるが、様々な経験ができるよう新しい活動も取り入れていけるよう努力している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		長期休業中は学部ごとに目標を設定し、支援、活動している。	個々の課題やニーズへの取り組みが、徹底していないため今後目標や課題などを設定し取り組んでいきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			ひとりひとりの子どもの状況や、発達段階を考慮しながら、個として成長、集団の中で育ちあう場のそれぞれ意識しながら計画を作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している		○		外出などの活動の際は事前に役割分担を話しあっている。	日々の支援内容については週に1度のミーティングで話し合っている。今後勤務時間等も考慮しながら活動前の打ち合わせを徹底していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○			勤務時間にばらつきがあるので必ずふりかえりは出来ていないが、日誌を書く時間などを利用して共有するように努力している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			項目に分け、小さな気づきなども日々の記録をつけている。	モニタリング時や課題が出てきた時は記録を見ながら、支援について振り返りを行い改善している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			複数の職員で話し合いを行い、様々な視点でモニタリングを行っている	モニタリングの内容を受けて、支援計画の見直しを行っている。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている		○			今後ミーティング等でガイドラインの読み合わせを行い、ガイドラインへの理解を深めていく	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達管理責任者と実際に多く関わっている職員の2名で参加している。	今後も引き続き子どもたちの状況や支援の方針などを適切に伝えられる職員が参画していく。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		サービス担当者会議などを通して、学校の先生たちと情報を共有している。また日々の情報交換などは送迎時に密に行っている。	今後も引き続き課題や支援内容について共有できるような関係性作りに努めていく。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている			○		現在、医療的ケアを必要としている子がいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			移行会議などには積極的に参加して、情報を共有している。	保育園や児童発達支援事業所での様子を共有し、子どもの状態や支援の方法や使っていた道具などについて理解するよう努めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			活動に作業を取り入れるなどし、その時の様子も移行の際に提供している。	移行会議などには積極的に参加して、情報を提供している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			○	様々な専門機関からくる研修の情報を職員に周知し、研修への参加を呼びかけ、職員のスキルアップに努めている。	必要に応じて専門機関からの助言も受けながらより良い支援ができるよう努めていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○	法人のお祭りに兄弟や地域の子どもたちが参加してくれ交流している。	児童館や児童クラブとは交流ができていない。今後地域の児童館などと交流ができるように努力していく
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している			○		放課後等デイサービスの事業所連絡会に参加し、協議会へ意見を伝えたり、協議会の情報を共有していく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			事業所での様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたり子どもたちの状況を共有している。	日々の小さな変化や行動から子どもたちの成長や課題を見つけ、保護者と共有できるように努めていく
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○	定期的な面談の際には支援方法などについて伝えたり、アドバイスをしている。	ペアレント・トレーニングを実施していくために専門的な研修に参加できるように努めていく。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		支援内容や活動の様子などについてはホームページやFacebookで公開している。	利用の相談があった時や契約時に丁寧な説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		日々のやり取りの中で悩みなどを共有し、対応している。	必要に応じて相談支援員や学校など関係機関と連携しながら助言や支援を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		親の会があり、年間の活動計画に沿って、月に一回程度行事を行っている。	保護者同士のつながりを大事にしていくために行事や将来に向けての話し合いなどへの保護者の参加増えるように努力していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		法人内に苦情受付窓口を設けると共に、苦情受付の第三者委員や第三者機関についても周知し、保護者からの苦情を受け付けそれに迅速に対応できる体制をとっている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ホームページやFacebookも活用しながら活動の様子や行事についてお知らせしている。	その他機関誌や定期的な法人内の会議のニュースなどを発行し、情報を発信している。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報の管理については十分に気を付けている。	写真や名前の掲載については事前に保護者の方に了承を得ている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		絵カードや写真を使ったり、必要に応じて情報を書き加えるなどしている。	障害特性に応じたコミュニケーションがとれるように努力していく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		年に2回の法人のお祭りを実施し地域の方を招待している。	子どもたちと活動の中に畑を取り入れ、畑を地域の方に手伝ってもらったりと交流をしている。また新事業所には地域交流スペースを設け、地域の方に開かれた事業所運営に努力していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			各種マニュアルを作成している。職員の研修も行っている。しかし保護者の方への周知が不十分のため今後努力していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的に消防者の指導も仰ぎながら、様々な場面を想定し、避難訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		強度行動障害の研修を初め、様々な研修に参加し子どもたちの特性について理解を深めている。	虐待防止のマニュアルも作成したり、複数の目で支援するなど虐待防止に努めている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			現在のところ身体拘束が必要と認める児童生徒はいません。しかし短時間でも拘束が必要となる場合には、必ず保護者の方とも相談の上、個別支援計画に記載し、適切な支援体制、相互理解の上で慎重に対応していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			現在食物アレルギーの子どもの利用はありません。今後必要がある場合は医師の指示に基づき対応していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットの記録を残し、閲覧すると共に職員会議で共有、再発防止について話し合っている。	